

10月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

90,632円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松印刷代)	18,693円
交通費(駐車場、燃料代、高速代)	10,766円
通信費(折込、携帯電話代)	61,173円
支出計 22/10/1~22/10/31	90,632円

市政を考える

月刊武松

発行日
22/11/1

第206号

20300部発行

たけまつ ただし
頒布責任者：武松 忠(市議会議員)

小田原市の人口について

継続する人口減 高齢化率が30.5%に 社会増に期待

■総人口と3年齢区分別人口比率について

図1の人口推移より、人口減の傾向は変わりません。図2の3年齢区分比率より、高齢化率30.5%(2020)となりました。65歳以上1人を支える生産年齢人数は、6.1人(1990)から1.9人(2020)と30年で1/3(負担は3倍)になっています。

図1 小田原市の人口推移 各1/1現在

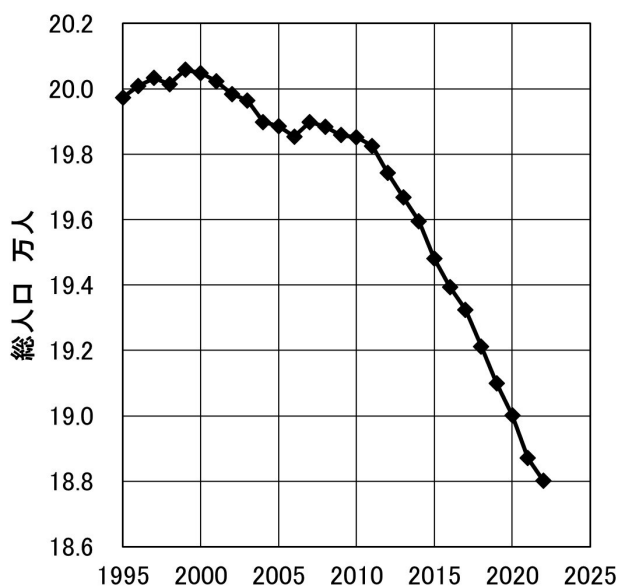
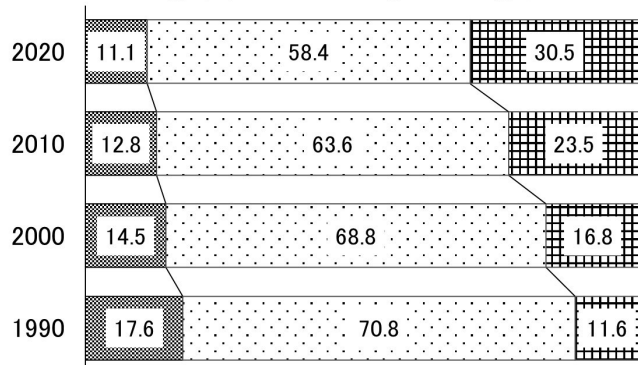


図2 3年齢区分別人口比率

■15歳未満 □15~64歳 ▨65歳以上



■転入者はどこから、どの年齢層が

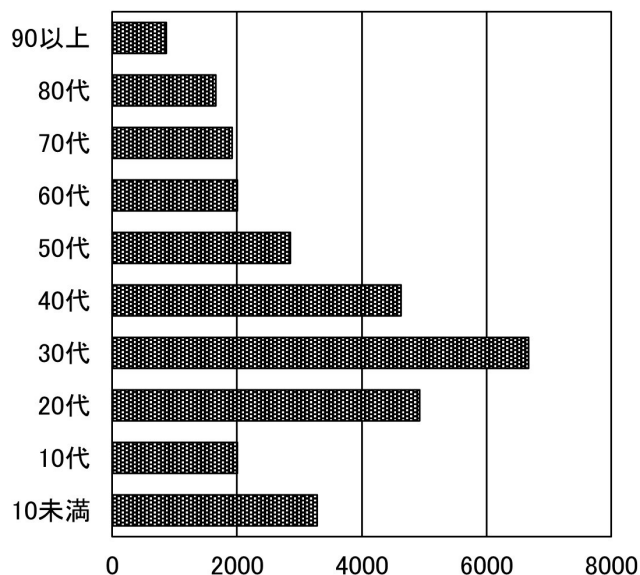
表1 転入元ランキング

順位	転入元	人数
1	東京都	1,837
2	横浜市	1,285
3	静岡県	1,149
4	南足柄市	882
5	国外	774
6	箱根町	539
7	埼玉県	529
8	秦野市	495
9	湯河原町	455
10	千葉県	431

表1の転入元ランキングは、国勢調査の5年前の居住地データより求めたものです。県内は市町村別、県外は都道県別となっています。また国外は国籍を問わず計上しています。転入元は、人口の多い東京都や横浜市は当然として、静岡県、南足柄市、箱根町や湯河原町など近隣市町も多いことが特徴です。

図3の転入者の年齢分布は、5年前の居住地データから転入者の年齢分布を求めたもので、30代が最多で、続いて20代、40代、10未満となり、働く世代と児童が多かったことに安堵しました。

図3 転入者の年齢分布 2020国勢調査

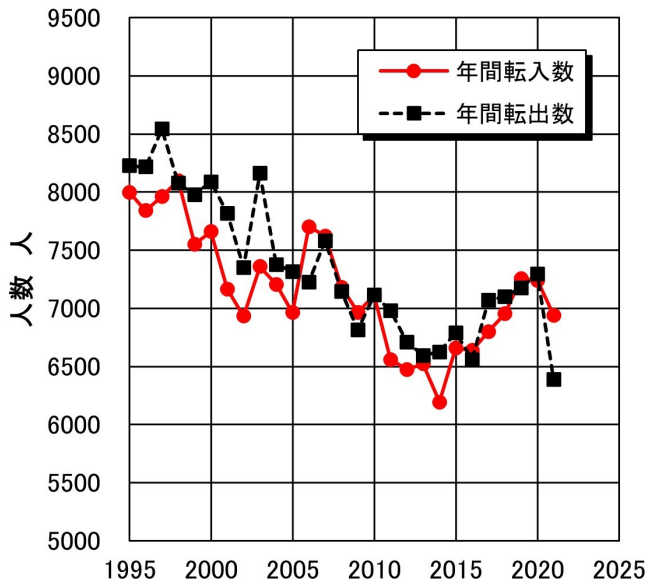


社会増とはいうものの

■社会増減について

人口の社会増(転入>転出)社会減(転入<転出)ですが、その推移は、社会状況や産業構造の変化に伴い毎年増減します。図4の年間転入者数転出者数の推移より、**2021年に社会増となったのは、例年より転入者が増えた訳ではなく、転出者が減ったこと**によるものです。2022年は社会増の傾向です。

図4 年間転入者数転出者数の推移



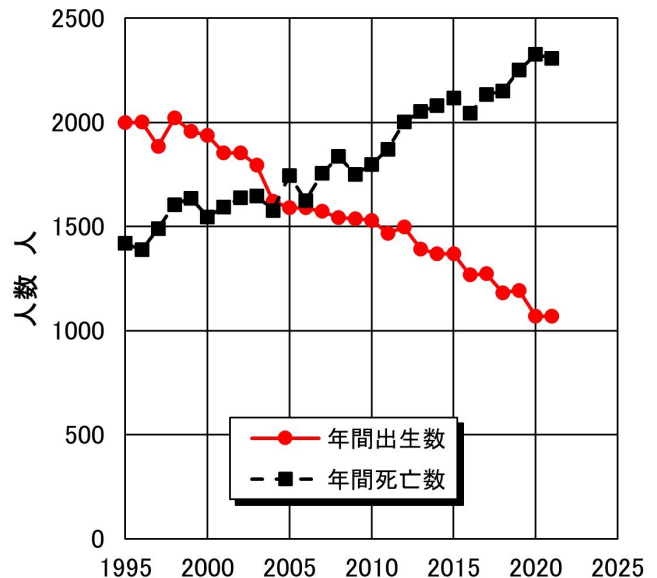
■自然増減について

人口の自然増(出生>死亡)自然減(出生<死亡)ですが、社会増減と異なり、直線的となっています。

図5に年間出生数死亡数の推移を示します。特に**出生数の低下が進んでおり、25年前に比べ約半分10年前に比べ500人減の年間1000人まで減少**してしまいました。出生数を増やすことは簡単なことではありませんが、子育て世代の収入増や転入増を図っていくことが急務となります。

死亡者数は、人口の多い団塊の世代が75歳以上となってきているため、**あと5年程は高止まり**となる見込みです。なお年齢区分人口の最多は70~74歳で、次は50~54歳の団塊ジュニア世代です。

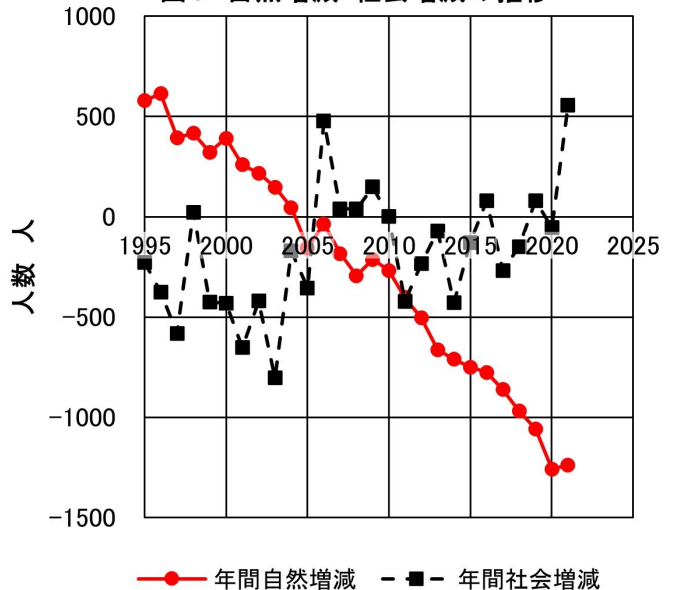
図5 年間出生数死亡数の推移



■自然増減・社会増減の推移から

図6に自然増減と社会増減の推移を示します。これまで説明してきた通り、進行する自然減と、増減しながら増加傾向の社会増減が、安定して社会増となることが望めます。

図6 自然増減・社会増減の推移



■お知らせ■

議会報告会は、当面の間、中止します。



公式HP
月刊武松パツナバー他



twitter
防災・感染症情報



facebook



気象庁キキクル
洪水害



▲北條五代祭りにて
来年は議会の参加なし